昭和三十四年十月一日郵便物第三種認可
昭和五十五年四月二十日發行

哲學研究

第四十六卷　第十册

第五百四十號

昭和五十五年四月二十日發行

現実活動態（下）
——アリストテレスにおけるキーネーシス（あるいは運動の論理）とエネルゲイア（あるいは活動の論理）との対置について——
……藤澤令夫

知識学と「弁証法」……長澤邦彦
——一七九四年の『基礎』を中心に——

ダルマキールティのアポーハ論……赤松明彦

彙報

京都大學文學部内
京都哲學會

京大
55.5.24
教育

京都哲學會規約

一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする

一、右の目的のために左の事業を行う

(一) 會誌「哲學研究」を發行する

(二) 毎年公開講演會を開く

(三) 隨時研究會を開く

一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく

委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する

一、本會は賛助員若干名をおく　賛助員は會員の中から委員會が推薦する

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない　學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる

一、會員は會費として年二、〇〇〇圓（會誌三冊分を含む）を前納する

一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる

一、本會は事務所を京都大學文學部内におく

一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

上田閑照　梶山雄一　木曾好能　酒井修　清水善三　竹原創一　辻村公一　中久保裕作郎　西谷正当　長谷部正明　平野俊二　藤澤令夫　宝月誠　水垣渉　宗像恵　本吉良治　森口美都男　山田晶　湯浅幸孫　吉岡健二郎

（追記）本稿脱稿後、戸崎宏正博士著『仏教認識論の研究、上巻』が出版された。この書は、ダルマキールティの『知識論評釈』第三章『知覚』章についての詳細な翻訳研究であり、現存するサンスクリット・チベット両注釈文献のほとんどすべてを参照検訂して、ダルマキールティの認識論体系を解明しようとされたものであり、博士が従来各種の論文集に発表されてきたものを再編されたものである。本稿第二章註⑳において言及した箇所は、この書では、一二三―一二八頁にあたる。

本論で述べたダルマキールティの「概念論」は、彼の知識論体系の基幹をなすとはいえ、そのごく一部にすぎない。従って、この「概念論」の上に構築された彼の論理学、特に論理的必然関係の問題につていは、他日稿を改めて詳論したい。また、ダルマキールティ以後のアポーハ論の展開をはじめとして、本論において論じ残した種々の点は、今後の研究課題として、他日発表する機会を持ちたい。

（筆者　京都大学大学院文学研究科〔インド哲学史〕博士課程在学）

告予　文論　号次

視覚の生態……柿崎祐一
――心理学的知覚論への一試考――
「構造的発展における哲学」として
の体系……船山信一
――西田哲学とヘーゲル哲学との
一対立点――
《芸術の終焉》と《芸術の可能性》…岩城見一
――ヘーゲル美学の解釈について――

前　号　目　次

現実活動態（上）……藤澤令夫
アリストテレスにおけるキーネーシス
（あるいは運動の論理）とエネルゲイア
（あるいは活動の論理）――
探究とロゴス（完）……水垣渉
マックス・ヴェーバーにおける
理解の方法（完）……西谷敬
空間と幾何学（完）……田村祐三

會　告

京都哲学會前委員、京都大学元教授、文学博士、抱石菴久松真一先生は本年二月二十七日午前四時、岐阜市長良高見三、二二八の自宅において示寂された。不来不去の法を九十年遊戯の生死に示現され、荼毘の後に骨は拾われず、告別式も行われなかった。

先生は明治二十二（一八八九）年六月五日に生れ、大正四年京都帝国大学文科大学哲学科を卒業、昭和十二年京都帝国大学助教授に任ぜられ、昭和二十一年教授に昇進された。宗教学第三講座（仏教学）を担任されたが、二十二年以降は宗教学第一講座（宗教学）をも分担された。昭和二十四年退官されるまで、身をもって仏教学を生き、絶対主体の学道によって数多くの後進を養成された。

先生は「賓主未分」（大正八年三月）「神と創造」（大正九年一月）「救済の論理」（大正十年五、十月）「常識実在論の基礎づけ」（大正十二年一月）「神学の方法論に関する一考察」（大正十二年四月）「実在について」（大正十三年五月）「プロティノスの絶対について」（大正十五年四月）「起信の課題」（昭和二十一年九、十月）など多数の論文を本誌に発表され、また京都哲学會委員として学會の維持発展に意を用いられた。

先生には上記論文のうちの数篇をも含む著書『東洋的無』（昭和十四年、弘文堂）を初めとして『起信の課題』（昭和二十二年、弘文堂教養文庫）、『茶の精神』（昭和二十三年、アテネ文庫）、『絶対主体道』（昭和二十三年、弘文堂）、『禅と美術』（昭和三十三年、墨美社）、『維摩七則』（昭和三十五年、ＦＡＳ協会）などの著書があり、またあまたの論文、講義・講演・提綱・対談の筆録、書画があるが、それらは『久松真一著作集』（昭和四十四年以降理想社刊。全八巻のうち七巻既刊、第七巻近刊）に集載されている。ここに謹んで讃嘆と哀惜の念を捧げる。

昭和五十五年三月二十日

京都哲学會

會　告

京都大学名誉教授・元文相・文学博士天野貞祐先生は、昭和五十五年三月六日朝逝去された。享年九十五才。

先生は、明治四十五年京都大学文学部の前身たる京都帝国大学文科大学を卒業、大正三年まで哲学倫理学研究室に副手として勤務され、七高、学習院の教授を経て、大正十五年、西洋哲学史講座担当の助教授として、母校に来任された。その後、昭和六年三月からは教授として西洋近世哲学史講座を、次で昭和十年三月、東大に転任された和辻哲郎教授のあとを受けて、倫理学講座を担任されることになった。その間、次第に険悪の度を加えてきた時流に屈することなく、その職責を全うされて、昭和十九年十一月停年退官された。

天野先生は、夙にカント哲学の研究に専心されると共に、彼の著『純粋理性批判』の翻訳にあたられ、十五年に及ぶ彫心鏤骨の末、遂にこれを完成される。原文の一字一句をゆるがせにしない厳密なこの名訳は、その後に与えた影響から見ても、日本の哲学界に対する画期的な貢献といわねばならない。先生はこの訳業を「私にとって一種の Mönchsarbeit であった」と言っておられるが、

この万事を抛っての学問への愛は、もともと教育者たらんとされた先生の志と結びつき、『道理の感覚』（昭和十二年）『学生に与ふる書』（昭和十四年）『道理への意志』など、天野先生の面目躍如たる書物として現れる。これらの著書が広く人々の、特に戦時下の学生たちのいかに大きな感動を呼び起し、真理への情熱を燃え立たせ、道理の感覚に目覚めさせたかは、周知のところであろう。

退官後の広い世間に出られてからの御活動も、こうした学問や真理への愛に裏付けられていて、変るところがなかった。

ここに改めて先生のお仕事と人格を偲ぶとともに、先生の御冥福を心からお祈り申し上げる。

昭和五十五年三月二十日

京都哲学會

編輯報告

京都哲学會では昨年一月二十五日の決定に基き（「哲学研究」第五三七号、一〇五頁所載）、新しい編輯方針の実施を準備して参りましたが、さきの第五三九号を以て、その前から御預りしておりました諸論文の掲載もほぼ完結いたしました。なほ、四十八年三月以降五十三年三月にいたる間の彙報の掲載が残っておりますが、これも逐次連載の上、その完了時に対照表を附する豫定であります。

いまここに、最近数歳の懈怠と惰気とを一掃し芳醇の新酒を新しき器に盛る日を迎へて、一に先人の拓いた荆棘の道を偲ぶとともに、草創当時の初心に復り、謙虚に本来の使命を果たさうと希ふものであります。會員各位の御理解を切望いたします。

昭和五十五年四月

編輯代表

泉治典著　アウグスティヌスから アンセルムスへ　四五〇〇円
出口純夫著　精神と言葉　八〇〇〇円
源了圓著　近世初期実学思想の研究　七五〇〇円
井島勉著　芸術とは何か　一二〇〇円
八代崇著　イギリス宗教改革史研究　七〇〇〇円
山本和編　キリスト教の将来　一八〇〇円
神沢惣一郎著　情念の形而上学　二八〇〇円
荒木見悟著　明末宗教思想研究　七〇〇〇円
林田慎之助著　中国中世文学評論史　八五〇〇円
楠山春樹著　老子伝説の研究　七〇〇〇円
新井靖一訳 B・スネル　精神の発見　五〇〇〇円
森本芳樹訳 ジュニコ　中世の世界　五五〇〇円
極山・小西訳 ワイソシュトック　ヒューマニズムの悲劇　五〇〇〇円
深瀬基寛訳 B・ウィレー　十七世紀の思想的風土　三〇〇〇円
東京都千代田区一番町十七―三　創文社

會　告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番　京都哲學會）宛に規定の會費（年二、〇〇〇圓、但し、會誌三冊分）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入及び發賣に關する一切は東京都千代田區一番町一七番地創文社（振替口座東京二―九二四七二番）宛に願います

一、會員の轉居・入退會の事務及び編輯事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編輯に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京　都　哲　學　會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和五十五年四月十五日　印刷
昭和五十五年四月二十日　發行

編輯兼發行人　京都大學文學部内　京都哲學會
編輯代表　酒井修
編輯担当　宗像惠

賣捌所　株式會社　創文社
久保井理津男
東京都千代田區一番町一七番地
振替口座　東京二―九二四七二
電話東京二六三―七一〇一（代表）

印刷所　曉印刷株式會社
東京都文京区関口一―二四―八

註文規定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共（一部、定價七〇〇圓、送料・六〇圓）前金にてお送り下さい

昭和五十五年四月十五日印刷
昭和五十五年四月二十日發行

THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLVI April 1980 No. 10

Aristotle's Distinction between ENERGEIA and KINESIS
.....Norio Fujisawa

Wissenschaftslehre und Dialektik .....Kunihiko Nagasawa

Théorie de L'Apoha chez Dharmakīrti
.....Akihiko Akamatsu

Published by
THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY
(The Kyoto Tetsugaku-Kai)
Kyoto University

Kyoto, Japan

雑誌コード 06427-5 定價700圓